

「羅針盤」vol.25

校長 白岩博明

新型コロナウイルス感染症対策のため、在校生欠席などの対応をとって規模を縮小して中学校の卒業式を実施いたしました。
高校同様、第1回目の卒業式でしたが、厳かな卒業式でした。



中学校卒業証書授与式 式辞

二十四節気、啓蟄の次候「桃始めて笑う」とき、早くも桜の開花だよりが聞こえてきました。新型コロナウイルス感染症対策のため、卒業証書授与式の挙行が心配されましたが、こうして挙行できましたことは、誠に喜ばしい限りでございます。

11名の卒業生のみなさん、卒業、おめでとう。みなさんは中学校3年間の学びを加え、九年間の義務教育課程を修了しました。また一歩、自立の歩みを進めましたね。

保護者のみなさま、高いところからではございますが、ご息女のご卒業、誠にありがとうございます。心からお祝い申し上げます。また、この3年間、本校の教育にご理解とご支援を賜り、深く感謝申し上げます。そして、本日の卒業式を挙行するにあたり、ご多用の中をご臨席いただきました修道学園専務理事・住田敏様には、心から御礼申し上げます。

さて、卒業生のみなさん、中学3年間を振り返ってみると、どのような3年間だったでしょうか。13歳から15歳、個人差があるものの一生の中で最も感受性が磨かれるときだと言われます。例えば、訳もなく家族や友達と衝突してみたり、周囲から干渉されることを嫌うのに、やたらと人に干渉してみたりと・・・、それらは抑えきれない感情の起伏を確かめながら、そのときに必要な感情のあり様を学んでいたのでしょうか。今となってはどれもこれも意味のある、大切な経験だったはずですよ。

私は、2年間、みなさんの様子を傍らで見えてきましたが、心身ともに随分と成長しましたね。そのことはいくつかの場面で実感できましたが、その一つの場面は、五月に行われた「被爆ピアノコンサート・平和集会」のことです。75年前、広島で被爆したピアノと共に、沖縄県読谷村からお客様が来校されました。被爆ピアノの音色を味わい、悲惨な地上戦となった沖縄戦の語りを通して平和の意味について中学生全員で学びました。徐々に、1、2年生が集中力を欠いていく中、みなさんの聞き入る態度が群を抜いていたことを鮮明に覚えています。当時の惨状や歴史的事実について聞き逃すまい、見逃すまいとする姿でした。「さすが3年生」と、閉会までひとり呟いていました。

みなさんは、感受性を研ぎ澄ませながら日々の生活を過ごし、平和の尊さなど、さまざまなテーマに向き合う機会を通じて学び得たことがあったはずですよ。他者と日常を過ごし、他者との相互交流と理解を通じて自分を育むとき、大切なことに気づけたはずですよ。それは、諦めてはいけないこと、失敗を恐れてはいけないこと。仲間を信じること、仲間を受け容れること。仲間と意見を交わし、共に前を向き合ったことで見える景色が変わっていくはずだと確信を持てたこと。いや、景色が明らかに変わったこと。

そうです、まさしく、「協創」なのです。

みなさんは広島修道大学ひろしま協創中学校の最初の卒業生です。4月から高校生となり、さらに学びを深め、経験を刻み、自分が定めた高みに向かっていきます。そして、その先、少子高齢化社会が加速し、本格的な人工知能の時代が到来するであろう未来にこそ、仲間を信じ受け容れ、共に価値あるものを見出そうとする「協創」のスタイルが存在するはずですよ。

未来に向け、修大ひろしま協創中学校で培ったことを糧に、さらに自分を育み続けてください。

みなさんの前途に幸多きことを心から願い、式辞といたします。